経済動向調査のまとめ

令和3年度 第2四半期(7月~9月)

1. 兵庫県の景気動向

(令和3年10月27日発表 産業労働部政策労働局産業政策課による兵庫県の経済・雇用情勢を集約)

1 景況

現状(良い一悪い)構成比(%ポイント)

区 分		R2.12月	R3.3 月	R3.6月	R3.9月(現在)	R3.12月(予測)
全 産 業		▲19	▲10	A 7	▲ 2	▲ 6
	大企業	▲ 9	7	14	15	10
	中堅企業	▲17	▲ 9	▲ 11	▲ 1	▲ 7
	中小企業	▲26	▲19	▲16	▲12	▲14
うち製造業		▲23	▲ 6	▲ 5	2	▲ 3
うち非製造業		▲15	▲14	▲10	▲ 7	▲ 9

(出所) 県内企業短期経済観測調査 (日本銀行神戸支店)

企業の業況判断は、持ち直しの動きが続いているものの、一部に弱さが残る。

2 需要

項目	R1 年度	R2 年度	R3.5月	6月	7月	8月	9月
商業販売額:億円 (前年度比增減率%) (前々年度比増減率%)	17, 753 (+ 0.9)	17, 960 (+ 1. 1)	1, 429 (▲ 0.5) (▲ 1.9)	1, 474 (A 4.7) (+ 0.5)	1,605 (+ 1.2) (+ 5.2)	1,518 (▲ 6.7) (▲ 1.1)	(-) (-)
乗用車販売台数:台 (前年度比增減率%) (前々年度比増減率%)	167, 298 (▲ 5. 4)	152, 809 (▲ 8.7)	10, 369 (+58. 3) (▲20. 5)	12, 179 (+15. 3) (▲19. 0)	12, 152 (▲ 5.4) (▲18.7)	9, 994 (▲ 1.6) (▲20.1)	10, 973 (▲28. 6) (▲41. 9)
新設住宅着工戸数:戸 (前年度比增減率%)	31, 567 (▲ 0.7)	30, 551 (A 3. 2)	2, 245 (A 1.8)	2,597 (A 4.4)	2, 425 (A 5. 1)	2, 641 (17. 4)	(-)
神戸港輸出額:億円 (前年度比増減率%)	53, 652 (▲ 8.4)	49, 756 (▲ 8.4)	4, 279 (+30. 7)	5, 312 (+43. 0)	4, 934 (+20. 0)	4, 706 (+27. 3)	5, 010 (+25. 9)

出所) 商業動態統計(経済産業省)、新車登録速報(日本自動車販売協会連合会兵庫県支部)、軽自動車新車届出状況(兵庫県軽自動車協会)、 住宅着工統計(国土交通省)、神戸港貿易概況(神戸税関)(商業動態統計調査の前年度比増減率は全店ベース)

項目	29 年度	30 年度	R1 年度	R2 年度	R3 年度(計画)
設備投資額 (前年度比增減率:%)	▲ 8.1	+0. 8	▲1. 2	+ 2.4	▲ 5.3
(H27年度比:H27=100)	(114.3)	(115. 2)	(113. 9)	(116.6)	(110.4)

(出所) 県内企業短期経済観測調査 (日本銀行神戸支店)

個人消費は、一部に弱い動きが続いている。

輸出は、増加している。設備投資は、減少計画にあるものの堅調である。

③ 生産

<u> </u>							
項目	R1 年度	R2 年度	R3.4月	5月	6月	7月	8月
鉱工業生産指数:H27=100	103.8	93. 1	98.6	97. 0	97.6	95.3	96. 2
(前月比增減率%)	(A 0.1)	(1 0.3)	(A 0.1)	(A 1. 6)	(+ 0.9)	(A 2.7)	(+ 0.9)

(月次は季節調整値、年度は原指数。年度増減率は前年度比較)

(出所) 兵庫県鉱工業指数 (県統計課)

生産は、横ばいとなっている。

4 雇用

項目	R1 年度	R2 年度	R3.4月	5月	6月	7月	8月
有効求人倍率(季節調整値):倍	1. 38	0. 97	0. 93	0. 94	0. 97	0. 97	0. 94
新規求人数(原数値):人 (前年度比増減率%)	33, 517 (▲ 6.9)	26, 815 (▲20.0)	27, 159 (+13. 8)	23, 629 (+ 1. 3)	28, 328 (+ 1.3)	27, 524 (+ 7. 4)	25, 731 (+ 5. 5)
現金給与総額:円	312, 795	301, 652	265, 361	263, 245	433, 412	335, 462	253, 197
(前年度比增減率%)	(+ 2.7)	(▲ 3.6)	(+ 1.1)	(+ 1.2)	(+ 5.2)	(▲ 1.8)	(+ 1.2)

(有効求人倍率の年度値は原数値、現金給与総額の年度値は年平均) (出所) 一般職業紹介状況(厚生労働省兵庫労働局)、毎月勤労統計調査地方調査(県統計課)

有効求人倍率は、前月を下回った。賃金は弱い動きとなっている。

⑤ 金融

項目	R1 年度	R2 年度	R3.5月	6月	7月	8月	9月
企業倒産件数:件	471	396	21	41	32	27	39
(前年度比增減率%)	(+10.3)	(1 5. 9)	(+110.0)	(1 6.3)	(A 23. 8)	(▲40.0)	(+39.3)
企業倒産負債総額:億円 (前年度比増減率%)	498 (▲13. 9)	590 (+18. 5)	27 (+35. 4)	22 (▲32.5)	50 (+151. 4)	49 (▲18.0)	26 (▲80.8)

(出所) 兵庫県企業倒産状況 (東京商工リサーチ神戸支店)

倒産件数は、前年を上回った。

~県内景気の現状についての日本銀行神戸支店のコメント~

管内の景気は、新型コロナウイルス感染症の影響が引き続きみられているものの、輸出や生産が牽引するもとで、全体としては持ち直している。

個人消費は、感染症の影響から、持ち直しの動きが一服している。設備投資は、堅調に推移している。 住宅投資は、概ね横ばい圏内の動きとなっている。公共投資は、高水準で推移している。輸出は、増加し ている。

こうした中、生産は、供給制約の影響を受けつつも、緩やかに増加している。一方、労働需給は、有効 求人倍率が1倍を下回るなど、感染症の影響により、緩んでいる。雇用者所得は、弱めの動きとなってい る。消費者物価(除く生鮮食品)は、前年を下回って推移している。

(令和3年10月14日 日本銀行神戸支店「管内金融経済概況」)

2. 地域における景気動向

但陽信用金庫 景気動向調査レポートより (2021年7~9月期)

※ D.I. (Diffusion Index)とは 「良い」「増加」「上昇」「過剰」「楽」と回答した 企業の占める 割合と、「悪い」「減少」「下降」「不足」「苦しい」と回答した 企業の割合との差により、景気の方向を判断する指数です。

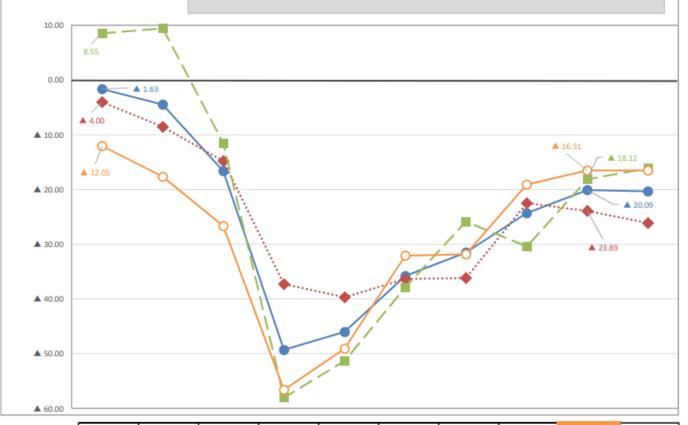
営業地区内の景気概況と ... 主要D.I.の推移

今期の全地域・全業種における業況D.I.は▲20.09 と前期から4.22ポイント改善し、厳しい状況ながら、前期に続き5期連続して改善に向かいました。売上額D.I.・収益D.I.についても、マイナス圏ながら前期より改善し、また、資金繰りD.I.はプラスに好転し、2年前のコロナ感染拡大以前の水準に戻りつつあります。一方、人手過不足D.Iは▲17.85と前期から5.26ポイント低下しており、コロナ禍の営業自粛により、一時的に解消されていた人手不足が、景況持ち直しにつれて深刻化していると思われます。来期は、業況D.I.・資金繰りD.I.・人手過不足D.I.が低下、売上額D.I.・収益D.I.が上昇するとの予想になっています。コロナの影響を大きく受けた2020年度第1四半期を底に、徐々に景気は回復傾向にあると思われます。



営業地区内地域別 ... 業況D.I.の推移

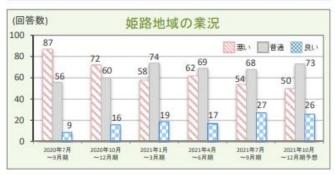
今期の地域別業況は、東播磨地域が▲23.89 と前期から 1.42 ポイント低下し、姫路地域は▲18.12 と 12.29 ポイントの改善、朝来・神崎・加西地域は▲16.51 と 2.58 ポイントの改善となっています。 来期の予想は、全営業地域では 0.23 ポイントの低下、東播磨地域では 2.22 ポイントの低下、姫路地域では 2.01 ポイント上昇の改善、朝来・神崎・加西地域は横ばいの予想となっています。



	2019年7月 ~9月期	2019年10月 ~12月期	2020年1月 ~3月期	2020年4月 ~6月期	2020年7月 ~9月期	2020年10月 ~12月期	2021年1月 ~3月期	2021年4月 ~6月期	2021年7月 ~9月期	2021年10月 ~12月期予想
全営業地区	▲ 1.63	▲ 4.46	▲ 16.63	▲ 49.31	▲ 4 6.01	▲ 35.80	▲ 31.51	▲ 24.31	▲ 20.09	▲ 20.32
•••◆••• 東播磨地域	▲ 4.00	▲ 8.52	▲ 14.79	▲ 37.29	▲ 39.66	▲ 36.31	▲ 36.16	▲ 22.47	▲ 23.89	▲ 26.11
■■■ 姫路地域	8.55	9.46	▲ 11.56	▲ 58.00	▲ 51.32	▲ 37.84	▲ 25.83	▲ 30.41	▲ 18.12	▲ 16.11
→ 朝来·神崎 ・加西地域		▲ 17.65	▲ 26.67	▲ 56.60	▲ 49.07	▲ 32.08	▲ 31.82	▲ 19.09	▲ 16.51	▲ 16.51









営業地区内業種別 ... 業況D.I.の推移

業種別では、製造業が▲11.18 と 0.48ポイント上昇、サービス業が▲32.81 と5.29 ポイント上昇、不動産業は▲6.67 と 7.62 ポイント上昇、小売業は▲36.67 と1.66 ポイント上昇、卸売業は▲40.00 と 0.91ポイント上昇、建設業は▲8.97 と 14.11 ポイント上昇し、全業種においてマイナス圏ではありますが、改善しています。来期の予想は、製造業・サービス業・卸売業で改善、不動産業・小売業・建設業で悪化の予想となっています。

